

- 5) TAHARA, M. (1929) Rhizoid formation in the embryo of *Turbinaria* (?) *fusiformis* YENDO and *Sargassum Thunbergii* O'KUNTZE. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., Biol., 4: 1-6.
- 6) 石田寿老 (1968) 発生生化学序説。発生生化学 (石田寿老編)。裳華房, 東京. 1-21.
- 7) 真野嘉長 (1971) 初期卵割期における高分子合成の調節。初期発生における細胞 (日本発生生物学会編) 岩波書店, 東京. 88-158.
- 8) NAKAZAWA, S. and TAKAMURA, K. (1967) An analysis of rhizoid differentiation in *Fucus* eggs. Cytologia, 32: 408-415.
- 9) QUATRANO, R. S. (1968) Rhizoid formation in *Fucus* zygotes: Dependence on protein and ribonucleic acid syntheses. Science, 162: 468-470.

□ William A. S. SARJENT: **Fossil and living dinoflagellates.** i-vii+182 pp. 1974. Academic Press, London. (邦貨にして約 4,700 円).

最近、環境汚染と関連して赤潮の発生を頻繁に見るようになり、その発生の機構をめぐって種々の角度からの研究が活発に行われつつある。ところで、この方面の研究を進めるに際して困ることの一つに、赤潮の主要構成生物群である渦鞭藻類 Dinoflagellates の生物学一般について纏めた手頃な書物がないということがある。ここに紹介する書物の著者は、専門は渦鞭藻類の化石を中心とした微化石学、地層学等であるが、現生の渦鞭藻類の文献にもよく目を通しており、本書の前半において渦鞭藻類の生態、生殖、分類などについて要領よく総説している。類書が少いだけにわれわれには便利な本である。なお、後半は地層学や古生態学の記述に費されている。

(千原光雄)